令和3年度第1回瀬戸内市総合教育会議 議 事 録

1 日時 令和3年9月29日（水）午後1時30分～2時40分

2 場所 瀬戸内市役所 大会議室

3 出席者

(1) 総合教育会議構成員

職名等		氏名
市長		武久 顕也
教育委員会	教育長	東南 信行
	委員	淵本 晴生
	委員	井手 康人
	委員	藤本 里絵
	委員	山本 正

(2) その他

区分	所属	役職等	氏名
説明員	総合政策部	部長	岡崎 清吾
		企画振興課長	青砥 良定
	こども・健康部	部長	難波 彰生
		こども政策課長	浮田 行裕
		子育て支援課参事	横山 典子
	教育委員会	教育次長	尾副 幸文
		総務学務課長	岡 洋介

		総務学務課参事	松本 総
		社会教育課長	勝本 眞一
		公民館長	小林 裕治
		邑久学校給食調理場所長、牛窓学校給食調理場所長、長船学校給食調理場所長	森山 光晴
		図書館長	村上 岳
	文化観光部	部長	頓宮 忍
		文化観光課長	若松 拳史
		文化観光課参事	片岡 学
	総務部	部長	松尾 秀明
	事務局	総務部	総務課長
総務課課長補佐			小玉 喜久

4 傍聴人数 2人

5 議事・議題（協議・調整事項）

- (1) 岡山県立邑久高等学校の支援について
- (2) 民間こども園の誘致について
- (3) その他

6 配布資料

- (1) 次第
- (2) 県立邑久高等学校への支援について
- (3) 瀬戸内市民間認定こども園設置・運営事業者募集要項

7 協議又は調整に係る事項及びこれに関する出席者の発言

※瀬戸内市総合教育会議運営要領第3条の規定により、市長が会議の議長となり、

議事を進行する。

(議長)

まず議題の1「岡山県立邑久高等学校への支援について」、担当部署から説明をお願いします。

(説明員 (総合政策部))

お手元に資料A3カラー刷りのものをご用意ください。タイトルが「県立邑久高等学校への支援」となっています。

「1. 瀬戸内市における邑久高校の位置づけ」です。県立邑久高等学校は市内唯一の高等学校であり、将来の地域を担う人材育成の拠点として、また、地方創生の観点からも地域コミュニティの核として、その存在は欠かせないものです。しかし、少子化の影響や、市内中学校の卒業生が公立私立共に岡山市内の高等学校を志願する傾向が高まっていることなどにより、在校生の数は減少しています。

そのような中、邑久高校では、地域学「セトリー (Be a SETOUCHI Leader)」、「SETOUCHI Leader」の部分を取って略して「セトリー」となっていますが、これにより、市や地域とも協力して地域課題の解決を通じた探究的な学びに取り組んでいることや、令和2年には生活ビジネス学科の新設などの魅力化に取り組んだ結果、入学試験の競争倍率も上昇傾向にあります。

近年の邑久高等学校の状況ですが、令和2年4月1日に生活ビジネス科を設置しています。それから同じく令和2年11月13日ですが、創立100周年の記念式典を開催しています。入試倍率は、こちらは一般入試の倍率です。平成31年、この時点では普通科のみで0.67倍。令和2年、普通科0.50、生活ビジネス科1.03。令和3年、普通科、こちらは先ほど市長の話の中にもありましたが、1を超えて1.39、生活ビジネスが1.29となっています。

なお、特別入試につきましては、3年間両学科とも1倍を超えているということをお聞きしています。

「2. 邑久高校への支援」です。本市では、若い世代の活気ある地域コミュニティの核として邑久高校を地域と一体となって支援する方針としており、「第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略」においても、「地域の発展に関わる人材育成に向

けた邑久高校生徒への支援」を重点事業として掲げ、更なる魅力の向上につながる支援などに取り組むこととしています。

下にある図が、「第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略（令和2年3月策定）」の邑久高校の記述の部分抜粋したものです。

「基本目標2、「このまちとつながりたい」、「このまちで家族と暮らしたい」と思われるまち」。これに対応します基本方針としまして、「(1) 郷土愛の醸成、郷土を知り、地元へ愛着（郷土愛）を持つ市民が多くなるような「ひとづくり」を目指す」。こちらの重点項目の一つとしまして、「魅力的な人づくり、地域の発展に関わる人材育成に向けた邑久高校生徒への支援」としています。これにより期待される効果としまして、一番下のオレンジの枠の中ですが、「若者の郷土愛の醸成、地域活性化」としており、地方創生の達成につながるという流れを想定しています。

右側のページにいきます。主な支援内容ですが、先ほども説明しました地域学「セトリー」への協力です。

まず、市長講演。邑久高生に期待すること。それから、市の課題についての講義。これは市の職員が出向いて講義をさせていただいているものです。それから、地域おこしに関する座談会への職員派遣。これは、例えば地域おこし協力隊、それから集落支援員、移住推進員などが出向く場合もあります。各種テーマに応じた講師派遣。例えば、防災に関するテーマでありましたら危機管理課、市の食材を使った調理実習でありましたら栄養士さん等を派遣しています。それから、学校評議員、運営指導員としての参画等があります。

続きまして、地域社会に貢献できる人材育成ということで、計画策定。これは先ほども言いました令和元年度に策定しました総合戦略になりますが、こちらの策定に係るワークショップへ生徒さんに参加していただいたというものがあります。それから、市営バスのラッピングのデザインを邑久高校美術部の生徒さんにさせていただきました。今年度の話ですが、SDGsカードゲーム作成によるまちの課題解決の検討等となっています。

続きまして、キャリア教育支援ですが、市内の企業見学のバス代金の助成ということで、例えば市内にあります企業さん、岡山村田製作所さんですとかオージー技研さん等を高校生が見学するために使うバスの代金の助成をしています。それから、インターンシップの受け入れです。今年度は8月3日から5日にかけて、保育園や

図書館で受け入れを行っています。

続きまして、「3. 邑久高校の状況」、生徒数の状況です。「①在籍生徒数」ですが、普通科で、一番下の合計のところを見ますと、男74人、女99人で173人となっています。ビジネス科は44人と105人で149人、合計で322人という在籍の生徒数の現在の状況です。その右に市町村別の生徒数があります。上から瀬戸内市が113人、岡山市が158人、備前市が40人、その他11人、計で322人となっています。瀬戸内市113人ですが、これを割合にしますと、全体の35%ということで、3人に1人が瀬戸内市から通っているというか、3人に1人にとどまっているというような状況となります。その下、「③在籍者（1年次）の推移」ですが、青い線が定数です。それに対してオレンジの線、棒グラフが1年次の在籍者の人数ということで、定員割れが続いていましたけれども、令和2年度に生活ビジネス科ができ、本年度は普通科、ビジネス科とも倍率は1を超えているという状況です。

最後に「4. 邑久高校の将来に向けて」です。地方創生の観点からも、地域の魅力の一部ともなっている邑久高校の存在は非常に大きいものであり、今後も様々な面から邑久高校を積極的に支援していきたいと考えています。

高校生をはじめとした子どもたちは将来の瀬戸内を担う人材であり、社会全体で育む必要があります。今後も、邑久高校と連携を図りながら、市が高校と地域をつなぐ役割を担うことで、邑久高校の魅力化と将来を担う人材育成を支援し、瀬戸内市の人口減少問題の克服と、地方創生の実現を目指すこととしています。

なお、配布資料の確認の際にも説明がありましたが、参考までに委員さんのみになりますが、邑久高校のパンフレットをお配りしておりますので、またお時間のある時にご覧になってください。

説明は以上です。

(議長)

ありがとうございました。それでは何かご意見ご質問等がありましたらお願いしたいと思います。

ちょっと補足して、市内の進学者の内訳も説明してもらえますか。

(説明員 (総合政策部))

正確な数字は今持ち合わせておりませんが、市内の中学校から邑久高校に進学している方の割合は、10数%と聞いています。

(議長)

はい。邑久高校生のうち1割ちょっとしか瀬戸内市の子どもはいないという、そういう状況です。

(説明員 (総合政策部))

それは在校生に占める市内の生徒の割合で、そうではなくて、市内中学校卒業者のうちの邑久高への進学者の割合が1割、2割弱くらいです。

(委員)

先ほどのご説明をお聞きしていて、まず邑久高校を地域の人材育成の核、拠点とする、そして地域のコミュニティの核とする、そういう位置付けの下にこれからは邑久高校の生徒の支援をまちづくりの総合戦略の重要事業として行っていくというお話しがあったと思います。

私は、50数年前に邑久高を卒業した卒業生ですので、邑久高の生徒を大事にしてやっていこうと、そのように思っておられるということに対して、本当にありがたく、嬉しく思っている次第です。

ただ、瀬戸内市の子どもたちが邑久高校へ行っている割合が2割に足りないということを聞きますと、少し残念に思います。皆さんもご承知のことだと思いますけれども、今高校も大きな改革を行おうとしています。その改革の一つが普通科の改革ということだと思います。普通科というのは、1948年に新制の高校ができて、その時から普通科は設置されています。ですから、もう73年間になるわけです。その73年間の中で、普通科はこれまで全く手がついていない、手がついていないという言葉が悪いですが、十分に考えられてこなかったということです。

しかし、現在も高校生の子どもの7割は普通科に在籍しているという状況です。高校においてどういう教育がなされているかという、普通科においては学力の全ては偏差値という数字によって表されています。その数字に基づいて大学へ

進んでいくという暗黙の了解の下に教育が行われています。どちらかという、それはやはり画一的な教育になっており、そういう中で生徒たちは学習意欲を失っていくという問題点があったわけです。そこに今回メスを入れていこうとしているのが、今の大きな改革の一つだと思っています。その改革は具体的に言うと、邑久高校でも実践していますけれども、地域の課題を解決していこうとする地域学科、或いはSDGsという現代的な課題を解決するために取り組んでいこうとしている学際学科、そういう科を置くことができるとしているわけです。それが新しい改革の一つとして出てきています。邑久高はその地域学科というものに取り組んでいます。先ほど市長さんが和気高校のお名前を出されましたけれども、そこで地域学というものが行われて、先進的な取り組みだということで生徒の数が増えていったということですが、そういうことが行われようとしているということです。来年度、22年度から高校も新しい学習指導要領が行われていきます。地域学科という取組を邑久高が行っているのは、前倒しで行っているわけです。

今、小学校や中学校では、主体的で対話的なより深い学びをしていこうということで取組が行われています。これは、そういう問題解決的な学習をすることによって得られる力について、これまでの偏差値とは違う見方で、子どもたちの学力というものを見ていこうとするものです。そういうことで、小学校中学校では取組が行われているということです。その考え方が、地域学科の取組の中に受け継がれていき、また、小中学校で学んだその力が、地域学科で生徒たちが学ぶ力につながっていくと考えています。ですから、小学校や中学校でその主体的で対話的な学びというものをしっかり充実していくということが、邑久高等学校で行われているような学びにとって必要なことではないかと思います。小中学校ではそういう学びを充実させていく必要があると考えています。

それともう一つは、やはりそういう学力に対する見方というものを保護者の方々に理解していただくということも、これからは大事なことではないかと思っています。まず、小学校や中学校で、主体的で対話的な深い学びというものがどういうものかということや保護者の方々に理解していただくということが、そこにつながっていくのではないかと考えています。

以上です。

(議長)

ありがとうございました。他の皆さんいかがでしょうか。

(委員)

特に何も言うことはないのかもしれませんが、いただいた資料を見る限り、今の3年生の時までは生活ビジネス科がなかったということで、いただいているパンフレットを見ると、これは商業科だとかそれから家政科の内容のコースのようなので、この生活ビジネス科をつくった段階で、そういう学校、コースを希望していた瀬戸内市の中学生、卒業生たちが、邑久高校を選択肢に入れることができるようになったと理解できます。それが競争率にも関わってきているのではないかと思います。この戦略は正しかったと思います。

この限られた資料の中で見る限り、地域学などはどこの学校でも20年前くらいからやっていると言っているようなものですが、きちんとやっていることを報道などで見て大変嬉しく思っています。つまり、これからの時代に必要な資質を備えた人材を学校として育ていこうという姿勢がよく見えるということです。本当に支援に値する学校ではないかと私は思います。支援をするということは学校にとってもありがたいことで、ついつい私も元校長だった関係で思ってしまうのですが、本当に嬉しいことですが、大切なのは学校の教育目標に合致していることで、つまり、学校の求めは何かということをしっかり把握して、その学校の願いにこたえるということが、支援する側としては大切だと思います。だから、ここに今、邑久高校の校長先生がいらっしゃったら、本当に今具体的にどういうことを瀬戸内市に支援してもらいたいのかということを知りたいと思いました。でも、主な支援内容のところに書かれていることは外れてないと私は判断するので、それでもいいと思いますが、また機会があったら邑久高サイドの願いみたいなものを教えていただけたらありがたいと思いました。

以上です。

(議長)

ありがとうございました。

今日邑久高校にこの議題を協議するということは伝えてありますよね。

(説明員 (総合政策部))

伝えています。

(議長)

日頃からずっと関わってきて、すでにいろいろいただいている要望内容などを説明していただいたらと思います。

(説明員 (総合政策部))

校長先生とこの前直接お会いしました。まさに委員がおっしゃったように押し付けにならないように、高校が何を望んでおられるのかということを中心にヒアリングさせていただきました。先ほどの資料でも示していますように、市内から通って来られる生徒さんが少ないというのが課題ということです。これを改善するためには、市内の小学校、中学校にも協力していただいて、邑久高校の魅力を小学生、中学生の皆さんにも伝えるような取組をしたいということです。例えば、先ほどセトリーの話の中で、今年度実施予定と紹介したSDGsのカードゲームです。邑久高校の生徒がカードゲームを作り、市内の小学校へ出前講座として行って、小学生の皆さんとそのカードゲームをしてみるというプログラムも予定しています。邑久高校からは、小学校などとの連携を強化したいというご要望もいただいています。

その他では、例えば地域協働活動コーディネーターの配置ということで、現在は県の高等学校の魅力化推進事業を使って実習をしていますが、雇用している先生について補助事業が終了した後はどうするかというような課題もあり、具体的には令和5年度以降継続して配置することについて市に協力してもらえないかというご要望があります。

また、邑久高校では、セトリーについては生徒の自主性に任せているということで、なかなか授業計画を立てるのが難しいということがあり、突発的な支出が発生する場合は福武財団の助成を活用されていますが、助成がなくなった後の費用をどうするかということも課題になっているということです。

それから、部活動の面では、指導者を非常勤職員として雇用されていますが、非常勤職員は週6時間分の予算しかなく、その中から、例えばサッカー部ですと、

週1回2時間指導に来てもらっている状況です。なかなか十分な指導ができないということで、市内の中学校で強い部活があっても邑久高校では十分な指導者が確保できないので、強い部活を経験されている生徒さんがそのまま邑久高校に来てもらうということがなかなか難しい状況となっているということです。

このように、要望としましては、資金面の支援と人材の確保にご協力いただきたいというご意見をいただいています。

(議長)

教育委員会ですでに支援している内容もあると思います。小中学校への邑久高校に関連した取組だったり、公民館などでやっていることだったり、少し情報共有しておいた方がいいと思うので、説明していただいてもいいですか。

(説明員 (教育委員会))

公民館では、毎年「邑友タイム」ということで、邑久高の生徒と公民館講座の方々との交流事業を行っています。新しく生活ビジネス科ができて、現在のところ生活ビジネス科の保育・食物コースの2年生の生徒を中心に実施をしています。今年度はコロナの影響でまだ実施ができていません。これから邑久高の担当の先生と、いつの時期がいいかということ相談することになっています。

公民館では、手話サークル、遊びの楽園、福祉体験ということで、3事業について邑久高の生活ビジネス科の生徒に体験をしていただいています。以前から福祉体験はあって、生徒に聞いてみますと、将来は福祉の関係の職業に就きたいからこの体験をしたいという生徒がいましたので、人気だということです。

また別件ですが、これも昨年邑久高からの依頼がありまして、授業の一環として2年生の生徒のいろんな悩みとか、相談とか、素朴な世の中の質問に対して私が協力しています。今年も来月から3時間ほど依頼がありまして、訪問することとしています。

以上です。

(説明員 (教育委員会))

図書館での取組について簡単に報告をさせていただきます。

先ほどから出ておりますセトリーについては、図書館の資料を使って調べるためのレクチャーということで、必ず最初に来ていただきます。

それから、セトリーの成果報告を毎年大きなパネルにまとめられていますが、これを市民図書館で展示をして、一般の方にも見ていただくということが続けています。

それから全般的なことと言うと、瀬戸内市の図書館協議会の委員の中に邑久高校の校長先生に入っていて、高校生、特に邑久高校の生徒さんたちが瀬戸内市の図書館にどのようなニーズを持っておられるかとか、一緒に連携するにはどういうことがいいたろうかということのご意見をいただくようにしています。

以上です。

(議長)

それくらいですか。

学校教育も社会教育も特に何もやってないですか。

(説明員 (教育委員会))

社会教育としては、スポーツの関係で今年度初めて邑久高校の方にプールのアルバイトに来てもらいました。

内容については校長先生とお話をしまして、進学ではなくて就職することを希望する生徒もかなりいるので、いろんな体験が必要だという生徒、また、スポーツ関係に就職したいという生徒をピックアップして、今年度2名の方にアルバイトに来ていただきました。大変優秀で頑張ってくれました。

以上です。

(議長)

そういうことで少し長くなりましたけど、これが実態です。

(委員)

ありがとうございます。

(委員)

今、いろいろ委員の先生方の話を聞いていて私もそうだなと思っていたのですが、高校の目的というよりは、小中学校の教育の内容が高校の学びに大きく影響してくるということだと思っています。高校に行ったときに、そこで自分にとって何が大切なのか、或いは自分が好きなことにずっと関わられるようなことがそこで学べるのか、自分が考えてやりたいことができる環境がその高校にあるかということが非常に大事だと思います。

こういう立場から見ると、やはり数字というのは気になるとは思いますが、数字が少ないからといって決して悪いとは私は捉えていません。もちろんあった方がいいとは思いますが、数字が少ないなら少ないなりに、それだけ手厚い指導や充実感や満足感を与えられる確率が高くなるわけです。それを生かしながら、ここに行ったら本当に懇切丁寧に向き合ってくれるという環境が伝わっていけば、また増えてくると思います。ですから、少ないからといって残念だと思わないで、これはチャンスだと思って、今一生懸命一人一人と向き合っているいろんなことを手伝っていく、指導していく、見守っていくということをやっていたら、それは周りの子どもたちにつながっていくのではないかと思います。

また、高校くらいになってきて、将来どんなことがやりたいかということが決まっている子と決まっていない子がいます。その時に決まっている子は本当に自分のやりたいことを生かせる場所はどこなのかということ調べる力、また、何も決まっていない子は何が自分でやれるのか、好きなのか、ずっと生活していけるのかということ調べる力が大事になってくると思います。そういう調べる力をどうやって周りでサポートしていくかということも大事になってくると思います。就職率だったり進学率だったり、やはりそこに通う子どもたちの満足感というのは、大事になってくるのではないのでしょうか。

またそこで、2つどちらかしなければいけない、どちらかにしなければいけないというような、いろんな意味での決断力も、やはり大事になってくると思います。調べる力と決断力というのは、いろんな意味でどこでも大事なことだとは思いますが、それを育てていける環境がしっかり学校や社会の中で与えられて、そういう場面が多ければ多いほどいいと思います。

(議長)

ありがとうございます。

(委員)

高校を考えるときに、邑久高の子が少ないということで、なんでなんだろうかなというのは、うちもそういう話をしたことがあります。私たちの時代は普通科だけでなく家政科とかがあったので、幅が狭いからではないかということは話をしたことがありました。うちの子が入学した後、生活ビジネス科ができたことを知って、邑久高もいろいろ取り組んでおられることを初めて知りましたが、瀬戸内市の中学校からが少ないというのはなんとなく私も感じていました。少し専門科が流行ったというか、工業・商業が人気だったときに、あそこは進学校だからという感じで邑久高に進む子が少ないなということは感じていました。だからこの幅が広がったことで、だんだん増えてくるのではないかという期待はあります。岡山市からたくさん来てくれているというのは、進学だけでなくこういうコースができたことで、瀬戸内市のことを知ってもらって、こっちの方に就職してもらえとかそういう機会でもあると思うので、岡山市の人数が多くて瀬戸内市が少ないということだけど、悪いことではなく、魅力をアピールする場だという気がしました。

高校に入るときには、やはり高校の先のことを考えて選ぶと思います。就職したい子が邑久高に進むことは少なかったと思いますが、魅力のある瀬戸内市の企業が何社か就職先にあると思いつながりを見つけていました。そのつながりがあれば邑久高のアピールになるのではないかという気がしました。

以上です。

(議長)

ありがとうございます。

邑久高校は県立学校なので、瀬戸内市の所管ではないということ、教育委員会の所管では直接的にはないという部分も一面としてあるかもしれないですが、ただ先ほど話も出たように、小中学校の段階で邑久高校が選択肢の一つに組み込まれていくかということは、保護者の意思に任せるということだけではなくて、保護者の意思もいろんなことによって影響を受けているので、そこにいい影響を与えながら、

それだったら邑久高に行っていたのにならぬように、学校現場とか、或いは教育委員会での議題として教育委員さんの中でも邑久高についても少し頭のどこかに置いておいていただけたらという思いもあって、今回議題とさせていただきます。将来の選択肢として邑久高校がなくなるということが、瀬戸内市の小中学生にとってどのような意味があるのか、どのような影響があるのかということ踏まえた議論も是非お願いできればと思います。

それからもう一つ言うと、生活ビジネス科ができて、結局できる前と比べてのニーズというのは変わってないので、要は定員が下がっただけという厳しい見方もできなくもないので、その辺りをどう考えていくかということも今後検討が必要だと思います。

それでは他に邑久高校についてはありませんでしょうか。

それでは、邑久高校については以上とさせていただきます。

続きまして、民間こども園の誘致についてということで、こちらも説明をお願いします。

(説明員 (こども・健康部))

お手元の資料の「瀬戸内市民間認定こども園設置・運営事業者募集要項」をご覧ください。

1 ページの「1 趣旨」からです。市では、安心して子育てできるまちを目指し、保育需要の増加による子ども・子育ての支援の質・量の不足、多様化する保育ニーズへの対応等を踏まえ、保護者の就労にかかわらず等しく質の高い教育・保育を提供するため、邑久小学校区に認定こども園を創設することとし、設置・運営事業者の公募・選定を行いました。

「3 募集施設」をご覧ください。施設の種別は、幼保連携型認定こども園とし、定員設定は、市全体の保育ニーズの受け皿としての役割及び就学前児童の教育部分利用のニーズの受け皿としての役割を果たすことができる施設とするため、概ね90名定員で0歳児及び1歳児の定員を確保できる設定としました。

2 ページの「4 施設用地・建物の概要」をご覧ください。市が所有する記載の土地・建物を使用することとし、土地は貸付けし、建物は譲渡することとしました。所在地、面積等はこちらのとおりで、邑久町山田庄地内の県道沿いの旧パチンコ

店跡地です。

3ページをご覧ください。「5 運営に係る条件」です。「(2) 開園日・開園時間」については、月曜日から土曜日、1日11時間以上としました。

「(3) 地域子ども・子育て支援事業の実施」については、1日1時間以上の延長保育事業及び1号認定子どもに対する一時預かり事業の実施を必須とし、その他の事業については自主的に提示できることとしました。

「(4) 職員等の配置」につきましても、職員は市内在住の幼稚園教諭免許状及び保育士資格の保有者を配置することに努め、園長は幼稚園教諭免許状及び保育士資格の保有者で、5年以上の教育職・児童福祉事業の経験者を配置することとし、同等の資質を有する者も認めることとしました。

少し飛んで、「7 設置・運営事業者の選定・決定」です。選定方法としましては、瀬戸内市民間認定こども園設置・運営事業者選定委員会での選定を経て、市長が決定することとしました。

この公募に対し、3法人の応募があり、その後2法人から辞退届が提出され、1法人の審査を選定委員会において実施し、8月25日に事業予定者を社会福祉法人報恩会に決定しました。牛窓で牛窓ルンビニ保育園を運営している事業者で、自分で考える力や感じ方等を形成するために必要な心や人間力を育てるための教育保育方針を掲げておられます。

90名の定員設定で、うち0歳児6名、1歳児12名の定員を確保し、園長1名、保育教諭17名を含む、25名の職員配置を予定しています。

現在、土地の貸付契約及び建物の譲渡契約の締結に向けて、公有財産処理委員会に諮問し、必要な準備を進めているところです。

また、事業予定者への施設整備補助金につきましては、国の交付金協議の申請締切りが9月末の予定で、こちらも申請に向けての準備を進めています。12月に内示がいただける予定となっています。

今後のスケジュールにつきましては、国の交付金の内示後、事業者において実施設計を行い、工事業者を決定し、3月中に工事に着手する予定です。その後、令和4年度中の工事で、令和5年4月の開園を予定しています。

私からは以上です。

(議長)

ありがとうございました。

今回この件を議題にさせていただいた理由は、こども園ということで、1号認定の子が関わってきます。そうすると、すでに幼稚園が瀬戸内市内にありますから、そこの影響がどのようになっていくのかということ。それから幼稚園の施設も老朽化しているところがこれから出てくると思いますので、それをどのようにしていくかということ。それから長船の東保育園については、近々建替えが必要であろうと考えています。そうなったときに保育園をつくるのではなくてこども園をつくっていく可能性も出てくるので、そのときに国府幼稚園がどうなっていくか。美和幼稚園は閉めています、そのあたり含めてどのように幼稚園の配置が影響してくるのか。幼稚園の今後の在り方にも影響してくるので、今回挙げさせていただいてます。それらを踏まえてご意見等ありますか。

邑久幼稚園については、これだけの園児を受け入れるということになりますけども、邑久幼稚園自体がどうなっていくかとかいうことに特に影響ないですか。

(説明員 (教育委員会))

邑久幼稚園につきましては、建物もかなり老朽化が進んでいるところに、幼稚園を希望している邑久地区の多くの方がおられるので、その辺りどういう影響があるか。これから入る保護者さんがどのような考え方を持っているかということが大事なところになるのではないかと思います、その辺りが分析はできておりません。

(説明員 (こども・健康部))

今回の民間こども園での1号認定子どもさんにつきましては、3、4、5歳それぞれ5名ずつ、15名の定員を考えています。

令和5年にこのこども園ができますが、今城こども園につきましても、令和5年4月、同じ時期に建物の改修が終わり、新たな定員でやっていくことを予定しています。

この2つの改修の様子を見まして、今後幼稚園及び公立の保育園の定員等も考えていく必要があると思っています。

(議長)

何かご意見等ありましたらお願いします。

(委員)

意見というようなことではないですが、文章の中にも「多様化するニーズにこたえていく」というのがあって、子育て世代の若い保護者の方々の願いにこたえていくということは、行政として大切だろうと私は思います。こども園のニーズは高いと思います。ただ、幼稚園には幼稚園の学校教育としての目的があるし、こども園はこども園でまた違うところがあるとは思いますが、基本的には先ほど言ったように、保護者のニーズにこたえていくということが大切です。教育委員会の中でもこれは話題になって、例えばこども園の先生方と幼稚園の先生方が研修などを一緒にやって、小学校に整合的に入れるようにやっけていこうとしていると思います。これは、教育委員会としてもこども園はこども園ということで放っておくわけにはいかないと思います。だから、一緒にやるということで、確か話し合ったはずです。

それから、ルンビニになったというのを今日伺いました。私はこちらに岡山市から移住してきましたが、昔々に牛窓中学校に新卒の頃勤めていたことがあって、いいところだと思ってこちらに来ました。ルンビニ保育園は割合近くに、あの当時からありました。中身についてはよく知らないですが、名前はよく知っているところなので、地元の保育園がこの新しいこども園に関わってくださるということで、少し安心感みたいなものもあったりして、ここまでのところよい結果が出ていように展開していると思いました。

以上です。

(委員)

募集要項の5の「運営に係る条件」、「(4) 職員等の配置」で、一番上の段に「配置することに努め」ということが書いてありますが、募集要項として「努め」という言葉を使っていいのかと思いました。

要するに配置するのは当然という中で、資格のない人もここに入る余地があると思わせるような文言になっているので、それは預ける方としては不安に思うところが出てくるように思います。

(委員)

読んだときに、どこにその「努める」がかかっているのか分かりにくくて、「市内在住の」にかかっていると読めば、できる限り地元でカバーすることと読めると思います。

(説明員 (こども・健康部))

こちらにつきましては、幼稚園の教員免許状と保育士の資格、両方を持った者を配置してくださいという要件になっています。ただ、経過措置がありまして、そこまではどちらかの免許を持っている者でも可ということになっていますので、この「努める」ということにさせていただきました。

以上です。

(議長)

私も「市内在住」にかかっていると思っていましたが、そうではないということですね。

(説明員 (こども・健康部))

両方にかかっています。「市内在住」というところにもかかっている、市内の方をできるだけ使ってくださいということも含めています。

(委員)

給食のところですけど、ここは「全児童」となっていますが、「全児童」でいいですか。そこの1行目に「全児童について」と書いてあります。「児童」でいいですか。「園児」ではないですか。

(説明員 (こども・健康部))

「園児」です。

(委員)

「児童」でいいならいいですけど。

それともう済んでいるからいいですけど、アレルギーについて書いてあるわけですから、学校給食だったら当然衛生管理ということが絶対入ってきますが、その文言がないので、それは保育園の施設についてはそういう文言を入れる必要がないのかということをおっしゃったのですが。

(説明員 (こども・健康部))

ありがとうございます。給食を自園で調理するということですので、当然衛生面には気を付けないといけないところはあります。あえて書いてないというか、当然自園調理するということであれば、衛生面も配慮した職員配置とか、設備は必要だろうと考えています。今後事業者との協議の中で、そういったところには配慮して進めていきたいと思っております。

(委員)

今言っておかないとダメだと思ったので言いますが、またこども園を新たに設置するということがあるときの募集要項については、衛生について気を付けるということは当たり前かもしれないけど、私は昔のことを思い出しますので、瀬戸内市については、その当たり前のことを必ず文章にして出しておくということが私は大切だと思います。今このことに触れなかったら、もしかしたらそのことが今度も消えるのではないかという心配があります。お願いですから、あのことを思い出して、気を付けるということをお願いしたいと思います。

教育委員会も、給食については大勢の子どもを預かっているのですから、そのところは忘れないように気を付けていこうと話しているところです。よろしく願います。

(議長)

他の皆さんもよろしいでしょうか。

議会でも保育園の配置の計画とか今後の計画を示せということをおっしゃっていると思うので、それはこれからやっていくことになっていると思っておりますけど、その時幼稚園はどうするつもりですか。

(説明員 (こども・健康部))

先ほども申し上げましたが、この民間こども園ができ、今城こども園での定員が定まった時点での申し込みの状況等で判断して、今後の保育園の整備計画を立てていかないといけないと思っています。

当然、今後の保育園の整備というところでは、こども園化ということは避けて通れないところです。子ども・子育て支援事業計画にも今後の保育の量をうたっていますが、その計画に基づきまして進めていくようになると思います。併せて整備も計画を立てていかないといけないというところで、支援事業計画には、保育園と幼稚園、こども園、合わせた確保量というものを見込んでいますので、それに基づきまして、今後の状況も考えていかないといけないと思っています。

(議長)

幼稚園型のこども園をつくろうという話は教育委員会では全く出てきていないですか。

(委員)

出てきていないです。

(議長)

幼稚園は幼稚園として、定員とどこを残すか、そういう話を中心となっていくので、一緒につくっていくという考え方でいいですか。あとはありませんでしょうか。

(委員)

こども園については、これから保護者の方々の働くニーズと子育てをしていくニーズをどう組み合わせていくのかという点で、将来的にそういう形が望ましいということは言われているところだと思います。

瀬戸内市以外の近隣の市町においても、幼稚園、保育園を統合したような形のこども園の発足というところもかなり出てきている状況にありますので、幼稚園を

幼稚園型としてそのまま残していくのかということも含めて、今後の保護者のニーズも把握しながら取り組んでいかなければならないと思っています。

ただ、子育てをされている保護者の方の中には、幼稚園だから行かせたいというニーズもあると私たちは受け止めています。市内の保育園、こども園、幼稚園をどのように配置していくのかということについては、今後皆様のご意見もいただきながら検討していけたらと思っています。

(議長)

思い出しましたが、美和幼稚園、牛窓北幼稚園、それから牛窓西幼稚園は、教育委員会ではどうされるつもりですか。

(委員)

現在で言えば、牛窓北幼稚園については、すでに建物がかなり傷んでいるという状況で、それを再生して使うということにはなかなかならないと思います。西幼稚園を含めて2つの園を休園するとき、当時の保護者の方々に協議をさせていただいて、牛窓東幼稚園と統合させていただいて、そちらで幼稚園としての教育を展開させていただきたいということで理解をさせていただいていると受け止めています。

ただ、建物や土地の有効利用については、今後の課題として考えていかなければならないところではありますが、現時点では牛窓北幼稚園の跡地については利用が難しいと考えています。地元の牛窓北小学校からは、職員の皆さんの駐車場が非常に厳しいということもあるので、そういうところがひとつの案のような状況ですが、地域の方々とも相談をしながら協議を進めていかなければならないと思っています。

西幼稚園については、そこを使いたいというご要望もいくつか出てきていますが、建物がかなり傷んできているという状況もあるので、ニーズを踏まえながら、今後どうしていくかということについては考えていかないといけないと思っています。

美和幼稚園については、地元の方からは是非こども園をそこにということもご要望としては挙がってきている現状がありますが、近隣にある保育園、幼稚園等との絡みもありますので、その状況も踏まえながら考えていくということで、具体的に

どうするということについての方向性は現時点では出てきていない状況です。

今後、地域住民の方、これから子育てをされる方々の気持ちも踏まえながら、考えていければと思っています。

(議長)

このような状況です。

どちらにしても休園のままですとその後動けないので、次に向けて活用するのであれば、廃止条例を上げないといけないということが出てきますので、そういったことも考慮していただいて、教育委員会で動いていただきたいという考えです。

それでは議題の2は以上とさせていただきます。

議題の3「その他」ですが、何か委員の皆さま、それ以外の皆さん、ありますでしょうか。

<特になし>

特にないようですので、以上で協議は終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。